

## 英国で学んだこと、日本への期待

Special Delivery Midwifery Practice

高橋浩美

1993年夏に4年間慣れ親しんだオックスフォードの大学を離れ大都市ロンドンで開業助産婦として働くこととなった私の毎日は、現在次第に加速度を増しています。

元々は東京で病院勤務の助産婦をしていた私ですが、毎日そこで仕事をしている中での疑問や不満が最終的に私を英国へと向かわせました。好運にもオックスフォード・ブロークス大学の保健学部助産学科に入学することができ、理論は大学で実技は大学病院であるジョン・ラッドクリフ病院で学びました。卒業にあたりぜひ地域の中で働きたいと考え結局、以前から親しかったキャロライン・フリントとパレリー・テイラーの二人がやっているSpecial Delivery Midwifery Practiceに加えてもらうこととなりました。

私たちのプラクティスの方針は妊娠、出産、産後を通して受け持ちの助産婦が主となり一貫した継続ケアを提供することです。私たちのところにくる女性の出産の場所は現在のところ家庭か病院ですが、1994年の夏には私たちのパース・センターがロンドンにある大学病院の協力で完成しますのでその後は家庭か、パース・センターになります。ただし私たちが現在扱う年間70件ほどの分娩のほとんどは家庭分娩ですし、私たちが今後とも力を入れていくのも家庭分娩の普及です。

4年前に大学に入ったばかりのころの自分自身を思い出すとずいぶん考え方が変わったと思います。それは知識の量が増えたことによる当然の既決かもしれない。渡英前の私は全体としての出産の安全性に関して、

個々の助産技術、産科処置に関しても自分がしていることの良否を知りませんでした。4年間の大学生活の中で知識の量は一気に増えたわけですが、それと同時にそこではものごとをどう判断したらよいか、その方法も学んだように思います。ここ、英国の助産婦たちが近年さげんでいる“調査に基づいた助産業務(research based practice)の確立”ということと関係あるかと思いますが、とにかく科学的、客観的で理論的なものの考え方やいうものがどういものなのか、助産婦が専門職として独立するために大切なことを学びました。そして、そういう状況のなかで私個人としての家庭分娩に関する気持ちも固まってきたように思います。病院で分娩するほうが家庭で分娩するより安全だという証拠は現在までどこにもないわけですが、どうしてそういえるのか、その科学的根拠、歴史的背景についても今では納得できるようになりました。分娩時の浣腸や剃毛がなぜ必要ないか、会陰切開がなぜ不必要な医療処置なのか、その理由も理解できるようになりました。

現在の英国ではとにかく科学的な調査の結果を基に妊娠、出産、産後のケアの内容を決めていこうとしています。それによれば今後そのケアを提供する専門職として中心になるのは助産婦と判断されています。産科の医師が活躍する必要があるのは妊娠中あるいは出産時、または産後において異常が認められた場合だけで、正常に経過している健康な女性の妊娠、出産には産科医は一切関わらなくなってきています。結局はそのほうが出産を安

全で満足のいくものができるという結果ができてきているためです。英国では70%以上の出産は助産婦が責任を持って、医師の立ち会いなく分娩介助しています。日英間には確かに助産婦教育の内容の違いや、助産婦に対する社会的な認識のあり方の違いがあるかと思えます。しかし、日本と英国両方の国で助産婦教育を受け、実際に働いてみた私から見て日本の助産婦にも今後飛躍できる可能性は十分にあると思えます。英国の助産婦の歴史の中でも助産婦が抑圧された時代があり日本と似たような状況を経験しています。その歴史からすると今後日本の助産婦がどう変化していくか、妊娠出産にかんするケアがどう変化していくかはケアを受ける側の女性と、ケアを供給する側の助産婦、そしてそれを取り巻く回りの専門職者、社会全体の方針を決める政府などの力関係にかかっていることかと思えます。ただし最終的にはケアを受ける女性が流

れを変える大きな力を持っていることと思えます。

英国だけでなく、世界的な傾向を見ても助産婦の重要性が現在見直されています。助産婦の提供するケアが産科医の提供するものに比べ安全性で決して劣ることはなくある面では優れていることに世界中で気がつき始めています。助産婦にはそれだけの力があるわけですが、日本の助産婦にも同じ力があると私は信じています。そしてその力を発揮できる日が一日でも早くくるよう願ってやみません。

\* 高橋浩美さんの住所

office: Special Delivery Midwifery Practice  
34 ELM Quay Court, Nine Elms Lane,  
Vauxhall, London SW8 5DE  
Tel: 071-498-2322

自宅: 23 Maybury Street Tooling  
London SW17 0SB Tel: 081-672-4906

## スポンサーミッドワイフ、Mrs. EKAFTTES UMOOHの紹介

カナダでの第23回ICM大会開催に向けて、貧困でICM大会に参加できない国の助産婦への国際基金が創設され、日本助産学会でも会員の皆様から国際基金の募金を致しました。皆様からのご好意の国際基金は、ナイジェリアの助産婦Mrs. EKAETTES UM OOさん(セントメアリーズ病院勤務)に渡されて第23回ICM大会に参加されたとは、ニュースレター11号でお知らせ致しました。今般Mrs. EKAETTES UMOOさんから近藤理事長宛にお礼状と写真が送られて参りました。第24回ICM大会にも、是非国際基金をお願いしたいとのことです。



1993年 スポンサーミッドワイフ日本助産学会  
Mrs. エカエテ・ウモ（向って右側の人）



## -----“ I C Mからのニュース”-----

国際担当理事 松本 八重子

バンクーバー大会時の国際評議会に出席した I C M加盟団体にとって気がかりな3つの問題  
(1993年5月)

ニュースレター11号1面に掲載の小木曾理事による「第23回 I C M大会に参加して」に紹介されている標記の問題は、国際評議会初日に自己紹介の一部として発表されたものだが、その「まとめ」が最近 I C M本部から送られて来たのでご紹介する。世界中の仲間の直面していることと自らの周囲とを対比して見るのも、展望を拓くことにつながるかも知れない。

問 題 の 領 域	その問題を挙げた 加盟団体数
登録機関による独立した専門職としての承認と助産の自律	15
複数の助産婦教育に入門する経路の必要性、教育課程の改定の 必要性、助産婦教育に臨床的構成要素を保全する必要性	19
一般人の助産婦に対するイメージの高さが必要	7
どのような場にあっても助産婦として活動する自由を確保し、 女性に十分なケアを提供する	12
他職種の専門職者との協力の必要性	5
不適切な技術の適用/医学的介入/医師による支配	9
助産学研究の必要性	2
助産婦の不足	8
ケアを受ける女性が助産ケアのあらゆる側面で自己の意思で選 択できるようになること	4
女性に教育的働きかけができる助産婦の育成の必要性/女性性 器への割礼の根絶/助産婦が直面する倫理的ジレンマ	3
助産婦に対する政府の支持の不足/行政レベルに助産婦の不在	3
助産婦の失業	1
経済面(助産婦個人、専門職種として、専門職団体としての) への不況の影響	5
男女間の機会均等の必要性	1
衛生材料、医薬品、運輸の必要性	2
母乳哺育推進の必要性	1
助産婦への監督の過剰	1

## 第6回日本助産学会ワークショップを開催して

学術振興担当理事 竹内 美恵子

日本助産学会学術振興委員会による第6回助産学研究に関するワークショップは、平成5年11月27日土曜日に、会場を高知女子大学のキャンパスで開催した。

ワークショップのテーマは、助産学研究の実際と題して3つのワークショップテーマを設定した。参加者は、先ず、本学会の理事長で札幌医科大学保健医療学部長、近藤潤子先生による助産学研究の実際についての基調講演に導かれ、続いて研究グループ別の討議へと進んだ。近藤理事長の基調講演は、57名の熱意に溢れた聴講者に、助産学の発展を促すためには、優れた研究の積み重ねが必要であり、助産学独自の領域の研究がされなければならないとの研究への励ましとともに、母性及びその家族、地域の健康問題や課題を解決したり達成したりする過程にかかわる助産婦が、今後推進、発展させるための研究課題についてが明示した。

引き続き、グループワークは、助産学領域を心理学的な領域と助産学領域に分け、3つのテーマで、下記のパログラムに従って、3題の研究テーマ毎に熱心に研究討議が行われた。なお、ワークショップのテーマは、心理学領域の関心の高いことから、2つのテーマにわけた。危機的状況にある母性の心理的反応についての研究は、思春期母性の発達危機を研究テーマとして、神戸大学医学部附属病院看護部長、新道幸恵先生がコーディネータを勤めた。他の一つは、新たな課題となって

いる不妊女性の心理を不妊女性のコーピング現象の研究テーマで、高知女子大学の岸田左智先生が担当した。助産領域に関する研究領域では、産痛の測定用具と尺度に関する研究を徳島大学医療技術短期大学助産学専攻の竹内が担当した。

ワークショップは34名の会員の参加を得た。参加者は、臨床能力の熟練度の高い助産婦の参加が目立ち、実践上の解決すべき問題についての論議がことのほか深まった。続いて、参加者は、助産実践上における問題をどのように研究課題として発展させるかを討議しつつ、研究方法の決定、研究対象の規定、研究目的、概念枠組み、すべての段階での課題について討議した。一日の時間的制約の中でのワークショップは、実践上の問題を解決するために、いかに研究課題として発展させていくかで終始した。最後の全体討議では、今後、継続的に研究を推進するために、本ワークショップを基盤に推進していくことを確認し終了した。

なお、本ワークショップの推進については、高知女子大学の山崎先生をはじめ、高知女子大学の先生方に絶大なご援助をいただきました。ここに心からの感謝とともに深甚の敬意を表します。

なお、第7回の日本助産学会ワークショップは、札幌で開催いたします。みなさまのご参加をお待ちしています。

記

### 第6回日本助産学会ワークショッププログラム

#### 全体テーマ 助産学研究の実際

1. 理事長あいさつ 日本助産学会理事長 近藤潤子
2. 主旨説明
3. 基調講演

#### 助産学研究の課題

日本助産学会理事長、札幌医科大学保健医療学学部長 近藤潤子 教授

## 4. ワークショップ

## 研究領域

- (1) 危機的状況にある母性の心理的反応「思春期母性の発達危機」
- (2) 不妊女性の心理「不妊女性のコーピング」
- (3) 助産領域に関する研究「産痛の測定用具と尺度に関する研究」

## ◆ 第8回 日本助産学会学術集会開催のお知らせ

第8回日本助産学会学術集会をメインテーマ「国際化社会と助産婦」のもとに、下記のとおり開催致します。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

会長 藤田八千代

1. 期 日 1994年3月19日(土) 9:30～17:00
2. 会 場 横浜市市民文化会館 関内ホール (横浜市中区住吉4-42-1)
3. プログラム
  - \* 会長講演 : 「いま、何をなすべきか  
— 産婦ケアの原点に立って —」  
演 者 藤田八千代 神奈川県立衛生短期大学名誉教授  
座 長 佐々木敦子 信州大学医療技術短期大学部助産学特別専攻
  - \* 一般演題 : 口演、示説(ポスターセッション、ビデオセッション)  
(日本助産学会総会 12:40～13:20)
  - \* 特別講演 : 「異文化との出会い」  
演 者 飯 島 茂 桜美林大学国際学部教授
  - \* シンポジウム 「多様な文化のなかでの助産婦活動」  
座 長 官里 和子 順天堂医療短期大学  
恵美須文江 東海大学医療技術短期大学  
演 者 大井 玄 東京大学医学系研究科国際保健学科  
島内 憲夫 順天堂大学スポーツ健康科学部  
近藤クリスティー 工芸大学女子短期大学  
片桐 弘子 片桐助産院

終了後「中華街」において懇親会を行います。是非ご参加下さい。18:00～20:00

4. 学術集会参加・懇親会参加・昼食希望について
  - 1) 参加費 : 学術集会参加費は7,000円(1994年1月20日以降は8,000円)  
懇親会会費 8,000円
  - 2) 学術集会参加・懇親会参加申し込み方法  
参加を希望される方は、参加費を下記に振込んで下さい。当日は会員以外の方のお申し込みも歓迎いたします。

学術集会参加費・懇親会会費・昼食代振込み先

郵便振替口座	横浜 0-73285
口座名称	第8回日本助産学会学術集会

参加申し込みをされた方には、学会時の討議を円滑にするため「講演集」を事前にお送りする予定です。2月20日以降に振込みをされた方は、振込みの確認ができないことがありますので振込票をご持参下さい。

尚、宿泊ホテル、航空券、JR座席指定券等をご希望の方は、学会申し込みとともに同封の案内書に基づき、必要事項をご記入の上、1994年1月20日迄にお申し込み下さい。

当日は春休み中、連休のため大変混雑が予想されます。

3) 昼食申し込み

昼食用弁当をご希望の方は、あらかじめ学会参加費と同時に申し込んで下さい。

1食1,200円です。昼食券は事前にお渡しますので、当日その昼食券と弁当をお引き換え下さい。

5. その他

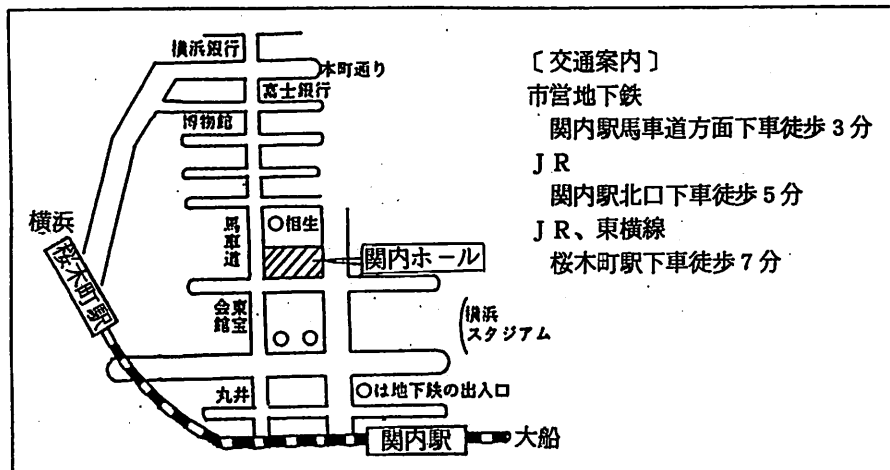
第8回 日本助産学会学術集會事務局

〒235 横浜市磯子区東町6-13

神奈川県衛生看護専門学校 助産婦学科

☎ 045-753-2401 FAX 045-753-2403

6. 会場への道順



特別講演、シンポジウムとも国際都市横浜に相応しい講師、内容をと計画致しました。

会場は充分な広さもあり未だたくさんの空席があります。懇親会も中華街にて、本場中国の味をお楽しみいただけるものと思います。学術集會・懇親会とも一人でも多くの皆様の、参加お申し込みをお待ちしております。

御案内

第8回日本助産学会 プレコンgress・ミーティング  
「ねばならない」からの脱出

主催：よいお産を考える会（代表：堀内成子）  
お産の学校（代表：杉山次子）

昨年、初の試みであった九州小倉での助産学会プレコンgress・ミーティングは大盛会で、参加者の方々との白熱した話し合いの中、自分達の将来にはほのかな希望と勇気が湧いてきました（助産婦雑誌第47巻6号 参照）。

今回は、「ねばならない」からの脱出がテーマです。助産婦側の「ねばならない」、妊産婦側の「ねばならない」、普段は目に見えないこの枠をはっきりさせてみようではないかと企画しました。話題提供者から日々の活動の中での気づきを報告していただき、その後のグループでのフリートキングでは前回に増して、参加者の方々の活発な意見交換ができることを期待致します。第8回日本助産学会学術集会の前夜、多くの方々の参加をお待ちしています。

と き：1994年3月18日(金)

場 所：聖路加看護大学（地図参照）

プログラム：午後5時30分より9時まで

5時30分 開会

5時40分 話題提供 「ねばならない」からの脱出

菅沼ひろ子（助産婦）

松岡悦子（文化人類学者）

大場理恵子（消費者：母親）

6時10分 グループでのフリートキング（軽食をとる）

8時00分 発表

8時30分 閉会

申し込み方法：3000円（資料代、軽食代金を含む）を下記へお振り込み下さい。

振込用紙の控えは当日資料と引き換えますので必ずご持参下さい。

振込先 東京9-710541 「よいお産を考える会」

申し込み締切：2月20日

（まだ余裕がありますので往復ハガキ  
で問い合わせて下さい）

問い合わせ先：FAXかハガキでお問い合わせ  
ください。後日お返事致します。

〒104 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学

母性看護学研究室 堀内 成子宛

FAX: 03-5565-1626

☆☆会場までの道のり☆☆

・地下鉄

日比谷線 築地下車（入船橋方面）徒歩3分

有楽町線 新富町下車 徒歩5分

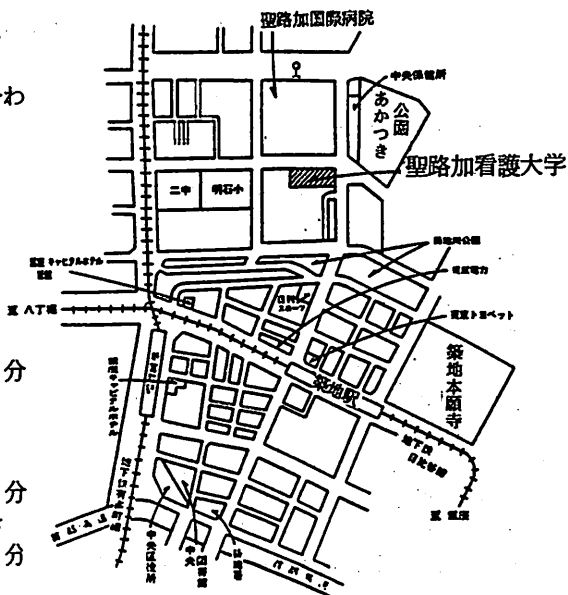
・バス

東京駅八重洲口より 深川車庫行き

聖路加国際病院前下車 徒歩2分

東京駅丸の内南口より 北砂町7丁目行き

聖路加国際病院前下車 徒歩2分



—— 第8回日本助産学会総会開催のお知らせ ——

会員各位

第8回日本助産学会総会を下記のとおり開催いたします。万障お繰り合わせのうえご出席下さいますよう、ご案内いたします。

日本助産学会 理事長 近藤潤子

記

1. 日 時 1994年3月19日(土) 12時40分～13時20分
2. 会 場 横浜市市民文化会館 関内ホール(大ホール)  
横浜市中区住吉町4-42

3. プログラム 1) 平成5年度活動報告・収支決算報告  
2) 平成6年度事業計画・収支予算案審議

- \* 当日は会員証を携行し、受け付けに提示して総会要綱を受け取り総会に臨んで下さい。尚、会員には事前に参加券をお送り致し、総会前に参加券を確認します。
- \* 当日受付に学会本部のコーナーを設けて平成6年度会費の受け付け、入会案内の配布等を行います。ご利用下さい。

—— 第8回評議員会開催のお知らせ ——

評議員各位

第8回評議員会を下記のように開催いたしますので、多事多端の折りではありますが、ご出席のためのお繰り合わせを宜しく願います。

日本助産学会 理事長 近藤潤子

記

1. 日 時 1994年3月18日(金) 16時45分～17時45分
2. 会 場 横浜市市民文化会館 関内ホール  
(地下1階 青少年育成センター)

3. プログラム 1) 平成5年度活動報告・収支決算報告  
2) 平成6年度事業計画・収支予算案審議  
3) 第10回日本助産学会学術集會会長選出

----- 事務局だより -----

\* 第8回日本助産学会学術集會の開催が近づいてきました。藤田会長のもとで国際都市横浜にふさわしいテーマと、交通の便のよい広い会場が用意され、皆様の参加をお待ち致しております。お誘い合わせのうえ是非ご参加下さい。

\* 今年の「国際助産婦の日」の活動計画は進んでおりますか。徳島、近畿、愛知では経年的に、そして昨年は金沢も加えて「安全な出産と健康な家庭づくり」にむけて助産婦の活動の実際をアピール致しました。

ICMの「国際助産婦の日」の目的は、発

展途上国の母子の健康を維持できるように、世界中の助産婦が彼女達の地域社会の人々に援助や支えをすることにあります。

ICMの意図も含めて今年の「国際助産婦の日」の活動が、各地で盛大に開催されることを期待致しております。

